

“すばらしきみえ”

FOR NICE COMMUNICATION

2025.10
248号

■特集／三重の総合型地域スポーツクラブ

●いま、グループネット／NPO法人 のってこらい ●みえを歩こう／伊賀市 伊賀上野城下町



三重の総合型地域スポーツクラブ



総合型地域スポーツクラブとは、人々が身近な地域でスポーツに親しむことができる新しいタイプのスポーツクラブです。対象年齢や対象種目は幅広く、参加者の志向やレベルに合わせて参加できるという特徴があります。

三重県内では、令和4年6月30日現在、68クラブがあり、それぞれの地域の特性に合わせて魅力ある取り組みを実施しています。

今回は、三重県内の総合型地域スポーツクラブの中から6クラブをご紹介します。

※各総合型地域スポーツクラブの入会や運営に関しては、手続き時期や方法、受け入れ人数、会費などに違いがあり、状況に応じて変更・休止する場合もあります。必ず事前にご確認ください。

取材・文：中村 真由美・中村 元美・堀口 裕世

中川 絵美子

撮影……梅川 紀彦・尾之内 孝昭・中村 元美
ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

皆が「元気リーダー」となって、自主的に健康増進・介護予防

一般社団法人 元気クラブいなべ

〔いなべ市藤原町〕

21年前に活動を始めた「一般社団法人 元気クラブいなべ」の最大の特徴は、市や学識経験者と協働して創りあげた「元気づくりシステム」を展開・進化させていることです。

「このシステムは、健康増進・介護予防のために、ストレッチ体操・ウォーキングなどを取り入れたオリジナルです」と教えてくれるのは、同クラブの事務局長、才賀論博さんです。お話によれば、同システムには、市内の体育館などで運動する「拠点コース」、専門コーディネーターが集会所に出向いて実施する「集会所コース」、同



「ヘルス・グリーン・ツーリズム」※



「ラフィーラ体操」※



「2024年度 元気クラブいなべ会員交流イベント」※

コースに30回以上参加した人が「元気リーダー」となり、ほかの参加者とともに自主的に運動する「元気リーダーコース」という3つのコースがあるとのこと。回を重ねるごとに同リーダーが増え、地域住民全体に波及していくというシステムは、平成26(2014)年の「第3回健康寿命をのばそう!アワード」で、介護予防・高齢者生活支援分野自治体部門の厚生労働大臣優秀賞を受賞するなど、高く評価されています。

現在、「元気リーダーコース」を実践する83か所の中から、北勢町の「東貝野公民館」を訪ねると、「東貝野元気クラ

ブ」の皆さんが集まっ

ていました。この日の

メニューは、「まいまい

運動」と名付けられた

準備運動に始まり、ス

クワット・腕立て伏せ・

腹筋を組み合わせた

「三種の神技」に続い

て、ラジオ体操とストレッチで、水分補給

を兼ねた休憩を含めて約90分のコースで

す。飛び入り参加すると、想像以上にハー

ドで、途中で息が上がりました。皆さん

に話を伺うと、「ころばなくなった」「長く

歩いても疲れなくなったね」などに加えて、

「いつも笑かして(笑わせて)もらってる」

「皆と一緒に楽しい」と、それぞれに効果

を実感していることが伝わりました。

今日もまた、いなべ市内では、元気な人

が増えていくことでしょう。

お問い合わせ

「一般社団法人 元気クラブいなべ」

(ふじわら高齢者生活支援センターいこい内)

TEL 0594-4618421



伊藤 勉(つよし)さん



才賀 論博さん

スポーツ初心者でも楽しめる教室が充実、
冒険気分が味わえるカヤックも人気
特定非営利活動法人

「letsスポーツ わくわくらぶ」

【亀山市関町】



高塚池でカヤック体験を満喫する子どもたち

日差しは強いものの、吹く風が心地よく感じられる7月6日、「亀山サンシャインパーク」を訪ねると、赤やオレンジ色のカヤックを運ぶ人々がいきました。「今日は、9時から子どもたち、10時から大人たちが高塚池でカヤック体験をするので、その準備中です」と教えてくれるのは「特定非営利活動法人」letsスポーツわくわくらぶの事務局担当、谷本 由美子さんです。

同クラブが、亀山市内初の総合型地域スポーツクラブとして設立されたのは、平成22(2010)年のこと。同25(2013)年に特定非営利活動法人となり、現在では、年間平均20回以上実施する「バドミントン」「ソフトテニス」「自己整体ヨガ」「シニア健康教室」「アクアビクス」「水泳教室」「テニススポーツあそび教室」など、子どもから大人までの幅広い世代が、楽しみながら運動できる場を提供しています。この日、9時からカヤック体験に挑戦するのは、主に「テニススポーツあそび教室」に通う小学低学年の子どもたち。同教室では、走る・跳ぶ・投げるなどの36の基本動作が習得できますが、中でも人気な



子どもたちの様子を見守る
谷本 由美子さんとスタッフ

のがカヤックです。時間になると、まず準備運動が始まりました。続いて救命胴衣をしっかりと身に着けた子どもたちは、いよいよカヤックに乗り込みます。初めて体験するために当初は尻込みしていた子どもたちも、水面に浮かび「右、右!」「左、左!」と声を掛け合いながらパドルを操作しているうちに、すっかり慣れてきた様子。水に浮かぶ感覚を楽しんでいるのが、こちらまで伝わってきました。また、同教室のコーチやカヤックの専門指導員のほか、池には救命用ボートも待機して、子どもたち一人ひとりを見守るなど、万全の態勢で臨んで

いることがわかります。保護者からも「普段からちゃんと指導してくれるし、カヤックも安心して任せられます」との声が寄せられました。

子どもたちが、水分補給などの休憩を挟みながら満喫している中、大人たちが集まってきました。「毎年7月から9月に開催する『大人を楽しむアクティビティ』参加者の皆さんです」と中川 三郎会長が教えてくれました。お話によると、同アクティビティでは、高塚池での基礎練習を経て、3回目以降に、県内での川下りに挑むとのこと。カヤックへの乗り入れの仕方など、丁寧に指導してくれると、毎年人気

が高い講座の一つとなつています。同クラブでは、年間をとおして開催する教室は2月から3月に募集しますが、それ以外の講座も、随時、数多く開催しています。興味のある講座があれば、一度、体験・見学してみたいかがでしょう。



中川 三郎会長

お問い合わせ

「特定非営利活動法人
letsスポーツわくわくらぶ」事務局
(関まちなみ文化センター内)
TEL 080-1608-6119
(第1・3金曜日 12時~14時)



救命胴衣を入念に装着



慎重に湖面へと漕ぎ出す



「大人を楽しむアクティビティ」



「アクアビクス」※



「ライフキッズスポーツクラブ」※

大人も子どもも地域みんな健康づくり
特定非営利活動法人

白山文化・スポーツクラブ

【津市白山町】



陸上競技の練習は全員参加。松本監督のホイッスルを合図にスタート！

「特定非営利活動法人白山文化・スポーツクラブ」では、陸上競技、バスケットボール、卓球、バドミントン、楽しく健康体操、テニスなどのスポーツのほか、茶道や夏休み子ども教室など、文化系の活動もあるのが特色です。事務局長を務める庄山昭子さんにお話を伺うと、「暮らしの中に文化・スポーツを」をキャッチフレーズに、幅広い世代が、みんなで楽しみながら活動するクラブです。平成31(2019)

年に、地元の各地区の代表17人で立ち上げました。現在11の教室があり、大人・子どもも合わせて220人ぐらいの会員がいます」とのこと。手作りで協力し合って運営されているのが感じられます。「とても熱気がある教室です」との庄山さんの勧めに従って、陸上競技の練習が行われる「津市白山体育館」の近くに広がるグラウンドに行きました。体育館もグラウンドも充実した施設で、野球場も併設されています。この日集まったのは、幼児から70代までの33名。数名の中学生も混じっていて、「学校に陸上部がないので別のクラブに入っていて、陸上の練習はここでして



賞状を持ってみんなで記念撮影。明るい笑い声が飛び交う。

います」と、本気のまなざし。学校の活動を補う面もあるようです。

この日は大会の後で、まず、賞に入った小学生・中学生数名に賞状などの伝達式がありました。「いろいろな年代の人が入り混じっていて、走る速さも運動量にも差があるのですが、その中でも、こうして何人もの子が県の大会に出て入賞していますし、中には優勝して全国大会に出ていく子もあるんですよ」と庄山さん。監督の松本恵美子さんの熱血指導の功績が大きいようです。

大きな声で、グラウンド内を動き回ってアドバイスを松本さん。その声に



表彰状の伝達式



中学生たちはまさに俊足



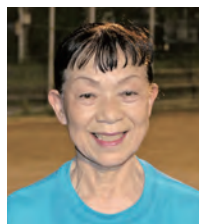
投てきでも入賞している



「ソフトバレー教室」※



「お茶教室」※



松本 恵美子監督

「幼児には、遊びながらトレーニングの基礎を覚えてもらい、大会をめざす子たちにはしっかり成果の出る練習を、大人には健康づくりのため楽しく体を動かしてもらいます。そして、練習が終われば和気あいあい、力を合わせて片付けます。これはどの教室も同じです」と庄山さん。世代を超えた連携の良さがあふれていて、それが地域全体の力にもなっているのだと感じました。

お問い合わせ

「特定非営利活動法人白山文化・スポーツクラブ」
TEL 090-4232-7691
(事務局長 庄山 昭子さん)

広々施設で多彩に健康づくり
一般社団法人

多気町スポーツ協会

【多気郡多気町】



ストレッチしながら体の状態を知る「おなか ココロすっきり」教室

タキスポの愛
称で町民に親しま
れている「多気町
スポーツ協会」。
事務局のある体育
館に伺うと、バド
ミントンのコート
が6面取れ、卓球
場やウエイトト
レーニングジムも
ある充実した施設。
「広いですね」と驚
いていると、「すぐ
近くの多気スポー
ツ公園内には野球
グラウンドやテニ
スやフットサルが
できるコートもあ
りますし、丹生の
あじさいアリーナ
や勢和トレーニン
グセンター、勢和
台スポーツセン

ターなどもあり、ここはほんの一部なの
です」と事務局長の中森慎一さん。「ほ
かにも、タキスポ主催のフィットネス
教室では、『BANKY文化会館』や
『ささゆり苑』『天
啓の里』なども会
場にしています」
と、局員の富保孝
之さんが教えてく
れました。広々と
多様な施設を使い、
さまざまな催しが
行われているそう
です。



森下 美聡さん



奥村 直人さん



富保 孝之さん



事務局長の中森 慎一さん

どが開催されていますが、「中でもお勧めは『ピックルボール』とのこと。『プラスチック製のボールをラケットで打ち合う、バドミントンと卓球とテニスの良い所を足したような競技です』『子どもさんからお年寄りまで、皆さんすぐに楽しめて、上達すればハードな競技にもなります。大会では、はじめにルールの説明や簡単な練習をしますし、ボールやラケットも貸し出しますので、初めての方も気軽に参加してもらえます。随時練習会も行われていますので、興味のある方はご連絡ください」と、お二人も熱く推奨するアメリカ生まれのニュー



「ピックルボール親睦大会」※



「ジョギング大会」※



足指の筋力などを定期的に測定



お話も愉快的講師のTAMIKOさん



みんなで楽しくストレッチ

スポーツです。
また、定期的に行われるフィットネス
も人気とのこと、「おなか ココロすき
り」というタイトルに惹かれて教室を見
せてもらうと、平日の午前中にもかかわ
らず、満員の盛況ぶり。講師のTAMIKO
さんが、軽やかな語りとともに、スト
レッチを教えてくださいました。どの筋肉を
伸ばすのかだけでなく、食事のことや、
他人と比べるのではなく自分の筋力を
チェックしながら動かすこと、ウエイト
コントロールのことなど、フレイル予防
の知識もさりげなく伝えてくれます。
定期的に筋力や腹囲などの測定も行い、

参加者の健康維持に役立っているとか。
「たくさんの方が来てくれます。健康に
過ごすことは、個人の幸福にも、医療費
の削減など地域のためにも重要ですね」
と中森さん。体育館は、バドミントン、
バレー、バスケット、卓球などで利用で
きます。料金など、詳しくは事務局へ。
明るく気さくなスタッフが出迎えてく
れますので、お気軽にどうぞ。

お問い合わせ

「一般社団法人多気町スポーツ協会」
(Oaseオーシャントレーニングセンター内)
TEL 0598-138-1113
<http://takitaikyuu.web.fc2.com/>

スポーツを通じて地域コミュニティを強化

いすずウキウキクラブ

【伊勢市楠部町】



「アクティブ・チャイルド・プログラム」では活動に共感した地元住民がボランティアで講師を担う

土曜日の小学校の体育館に子どもたちの元気な声が響きま
す。実施していたのは子ども向けの「アクティブ・チャイルド・プログラム」。4歳から小学6年生までがゲームなども交えながら平均台や高跳びで一緒に楽しく体を動かしていました。事務局長の東浦久修ひがしうらひさのぶさんは「勝ち負けにこだわるのでは



年齢問わず楽しめる

なく、運動に苦手意識のある子も楽しく気軽に参加できるよう工夫しています」と語ります。

「いすずウキウキクラブ」は、平成16（2004）年に伊勢市で最初の総合型地域スポーツクラブとして創設。伊勢神宮・内宮周辺の五十鈴中学校区を活動拠点としています。活動の目的に、地域のコミュニティ強化を掲げており、より多くの地域住民が活動に参加し、交流を図ってもらいたいという思いから、会員・非会員を問わず気軽に参加できる教室を年間40種類以上、1000回以上を予定し、実施しています。1年をとおしてさまざまなニーズを取り入れた多種目の教室を用意し、運動が苦手な人でも参加しやすい多世代交流を推進するメニューが多いのが特徴です。また会員は年会費（最大で大人9000円、子ども6000円）のみで全ての教室に参加できるという費用のハードルの低さも魅力。現在の会員は3歳から90代までの625名。子どもの会員が多く、地域の

小学生の約4割が加入しています。

「少子高齢化の時代に、地域における人と人の繋がりは欠かせないものです」と東浦さん。クラブ運営の背景には、子どもたちがさまざまな教室に参加することで、多くの大人と面識を持ち、子どもの健全育成や地域の見守り体制の強化につながることも、また高齢者の会員にとっては、健康づくりはもちろん、仲間づくり、生きがいづくりにもつながっている、という思いがあります。

そんなクラブが大切にしているのは、地域住民の「参画」と「連携」です。指導者やスタッフはできるだけ地元住民の



「ものづくり教室」※



「バドミントン教室」※



「お兄さん・お姉さんとのふれあい教室」※



「誰でも運動名人教室」※



「サルセーション教室」※

は将来教員をめざす学生も多く、子どもと接する貴重な機会となっています。

これらの地域に根差した活動が評価され、令和2（2020）年度には生涯スポーツ優良団体表彰（文部科学大臣表彰）を受賞しました。「みんなが地域で健康で幸せに暮らし続けるためのスポーツクラブとして、これからもさらに仲間を増やし、地域に貢献したい」と東浦さんは語ります。

お問い合わせ

「いすずウキウキクラブ事務局」

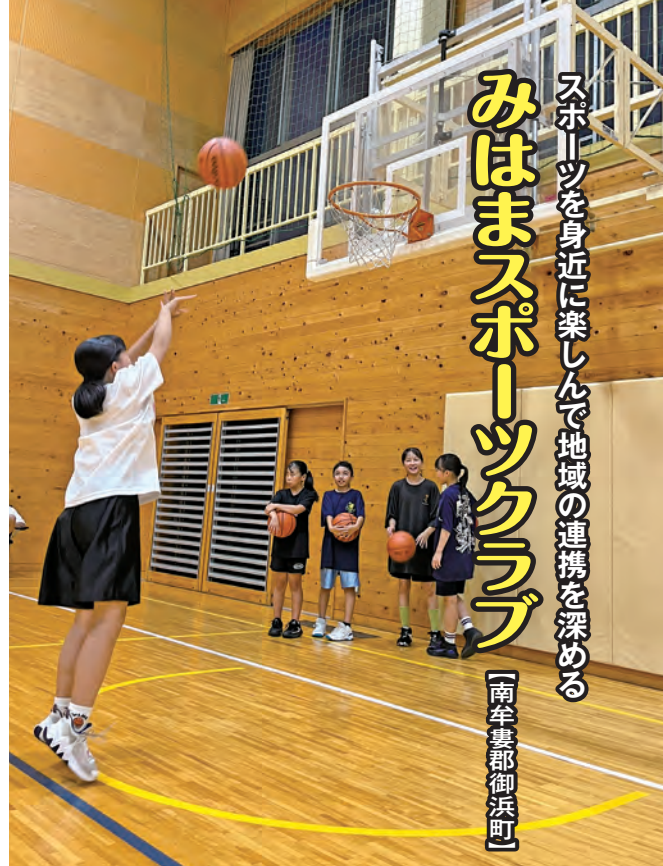
TEL 090-4869-7759

（東浦久修さん）

スポーツを身近に楽しんで地域の連携を深める

みはまスポーツクラブ

【南牟婁郡御浜町】



シュート練習に励む女子チームの上級生



1年生から6年生までみんな仲良く

と「みはまスポーツクラブ」事務局の丸谷聡子さん。隣接する熊野市や紀宝町からも参加があり、週に3日、練習に励んでいます。

バスケットは前後左右に激しく動くスポーツ。準備運動は入念にしつかりと行い、筋肉の柔軟性を高めて、ケガ予防にも努めます。「小学生は運動神経が最も発達するゴールデンエイジ。生涯にわたってスポーツに親しむため、バスケットに限らず

ポーツをさせたいが何がいいのかわからない」といった要望や悩みに応え、適性の高い競技にめぐり合えるよう、多種目の教室を開いています。

ミニバスケット教室「御浜PHOENIX」

の対象は小学生で、1年生から6年生まで男女合わせて約50人が通う教室です。「小学校が別々でも中学で一緒になる子たちもいて、楽しみにしているようです」

この時期に何かはじめておくといいいですよ」と丸谷さん。地域の総合型スポーツクラブは、健康な体とたくましい心を育て、責任感や正義感を養い、子どもたちの可能性を広げる役割もあります。

「御浜町は海・山・川があり、そんな自然を遊び場にしてるので身体能力に長けている子が多くいます。せつかくのその能力を眠らせたくなって」と「御浜

御浜町は、年中みかんの育つ温暖な氣候で、海と山に囲まれた自然豊かなところ。そんな町で活動する「みはまスポーツクラブ（代表・杉内 和夫）」は、ミニバスケットにソフトテニス、卓球、それに太極拳やゴルフ教室、エクササイズと、年代を問わず、誰しも気軽にスポーツが楽しめる取り組みです。「健康づくりのために何かスポーツをはじめたい」「子どもにス

PHOENIXの

コーチ・西 隆暁さん



コーチの西 隆暁さん

ツには一つの目標に向かって努力する姿があります。勝ちを意識して練習すれば、成長も大きい」と、目標を持つことで伸びる経験値に期待します。

現在、過疎化により子どもたちのニーズに合った部活動ができないこともあり、少子化の今こそが大切だと西さんは感じています。上級生の頑張る姿を見て、下級生も追いつこうと真剣。子どもたちのそんな姿が感銘を呼び、ミニバス教室の

人気は口コミで広がっているようです。保護者は練習の様子を見ながら互いに交流を深めたり、積極的に子どもたちをフォローしてくれる人もいて、「選手の数が多いのでありがたいですし、地域全体が盛り上がりつついけば。活動する中で、事務局が行政と繋がっていることも大きいですね」と西コーチは感謝します。

ゴルフや太極拳など大人が通う教室にはリピーターも多く、掛け持ちする人もいます。日常生活での運動不足や生活習慣病などの健康不安から解消され、生きがいづくりに役立っています。ここに来れば会話が楽しめるという人がほとんど

どで、居心地のよさも継続の秘訣です。地域住民が主体となつて運営するスポーツクラブは、指導者の想いで支えられています。「活動の場をなくしてはいけないと、続けてくれる方がほとんどです。指導者の方の熱心な気持ちで成り立っています」と丸谷さん。スポーツを通じて子どもの成長を見守る機運も高まり、地域の連帯感が強まっています。

お問い合わせ

「みはまスポーツクラブ」

TEL 090-2060-3151

(事務局)

御浜町中央公民館

TEL 05979-2-3151



下級生も機敏な動きを見せる



ドリブルの技を磨く



コートを走って汗を流す



全年齢対象のソフトテニス※



卓球教室は週2回の練習※

NPO法人のってこらい

奈良県との境にある熊野市五郷町は、人口約600人、約360世帯が暮らすのどかな山間地域で、市中心部からは車で30分。平成22(2010)年6月、この五郷で住民が立ち上げた「NPO法人のってこらい」は公共交通空白地有償運送のための団体。「のってこらい」とは「乗ってこい」というこの地域の方言です。三重県で初めての過疎地有償運送を始めました。



事務所に掛かる看板

お問い合わせ

「NPO法人 のってこらい」
事務局
熊野市五郷町桃崎521-1
TEL 090-4858-6808

公共交通機関の便が少ない熊野市五郷町。集落には坂道も多く、バス停まで歩くのも容易ではありません。まちの交通手段「NPO法人のってこらい」には、多くの住民が会員登録して運営を支え、地域一丸となつて取り組んでいます。代表の徳田 繁さん、会計の下和田 由紀子さん、ドライバーの細川 徹さんにお話を伺いました。

活動のきっかけを教えてください。

徳田：五郷町は一人暮らしの高齢者が多く、買い物や診療所にも行けない人が大勢いて、移動手段の少ないことが課題でした。平成18(2006)年に施行された「道路運送法等の一部を改正する法律」

について、当時市議会議員の増田 幸美さんが交通空白地の問題を検討。市のサポートも受けながらバス・タクシー会社とも話し合い、また住民アンケートを実施して、NPO法人を設立したのです。隣の飛鳥地区とともに、自家用車による有償旅客運送を始めました。

県内で初めての先進的な事業ですね。

下和田：似たような悩みを持つ地域から視察もあります。運行区域を広げたときには、ふるさと納税のクラウドファンディングで新しい車両を購入することができ、全国から共感を得られているのを感じます。徳田：平成29(2017)年度には総務省「ふるさとづくり大賞」を受賞しました。評価してもらえた点は、地域全体が活動

をしつかり支えていることで、会員が150人います。このメンバーには高齢の利用者だけでなく、まだ免許を持っていたり、仕組みをサポートしたいという若い世帯も含まれています。

運転に特別な資格は必要ですか。

細川：一種の免許証のほか有償運送の運転講習を受けます。ドライバーは基本1人ですが、今は15人程が登録していて、旅行に出かけたり、一度に多くの人が集まる場合は、登録ドライバーが車を出して



細川 徹さん



下和田 由紀子さん



徳田 繁さん

地域全体でまわせるように配慮されています。わたしは8年前に家族で五郷町に移住し、今年1月から本格的に業務に加わりました。地域の方とのつながりも、より深くなっています。

運行状況を教えてください。

細川：月に平均250件ほどの利用があります。料金はタクシーの2分の1以下に設定し、利用客のほとんどが車を運転しない高齢者で、診療所や買い物、美容院などに出かけるとき。利用したい時間や行き先を予め申し込んでもらい、予約した時間にご自宅やご指定の場所に伺います。徳田：運行時間は平日の8時から17時。

毎週火・金曜(飛鳥は月・水曜)は8時から10時の間で1便だけ市街地まで片道運行していますが、商店街や駅、診療所、スーパーなど、降りる場所は決まっています。帰りはバスを使ってもらうので、利用状況はなかなか伸びません。ほかには健康長寿課の行う事業の送迎に協力したり、クマの目撃情報が出ると小学校の送り迎えも受けています。

気をつけていることはありますか。

下和田：高齢者を単に車で運ぶだけでなく、ドライバーは玄関に一番近い場所に工夫して車を停めたり、乗降時に踏み台を用意したり、のんびりと買い物を待ったり、

ときには重い荷物を運んであげることもあります。単なる運送の枠を超え、みんなの暮らしをサポートしています。ドライバーは一人暮らしの利用者の方との会話も楽しみながら、見守り活動としての役割も果たしています。

「のってこらい」が運営を継続していることで、高齢で車の運転ができない住民も、安全・安心に地域の店舗に買い物に行くことができ、愛着のあるまちで暮らし続けることができます。交通政策の一つとして役割を果たし、地域において欠かせない移動手段へと成長しています。

インタビュー：中村 元美



乗り降りしやすいよう踏み台を用意



玄関先や車のドアまでフォローする



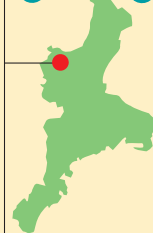
知ったもの同士で会話も弾む



緑豊かな五郷の集落。坂道も多い



取り組みが評価を受けている



藤堂 高虎が築いた城下町、
武家屋敷を訪ねて

伊賀市

伊賀上野城下町

慶長13（1608）年、伊賀と伊勢の領主となった藤堂 高虎（1556～1630）は、急いで伊賀上野城の大改修に取り掛かりました。大坂（大阪）の豊臣家との決戦が間近に迫っていたためです。続いて高虎が着手したのは、城下町づくり。その町並みは、基盤の目のように整っていました。

現在、城下町を歩くと、随所で忍者関連のモニュメントなどを見かけます。平成29（2017）年に伊賀市が忍者市宣言をしたことを実感します。また、高虎が基礎を築いた町割りが残りと、どこかで武家屋敷にも出会えます。今回は、「いがうえの語り部の会」のモデルコースに沿って歩きます。

取材・文：中村 真由美



「上野市（忍者市）」駅の駅舎



「だんじり会館」



展示風景



鳴鹿坂



“下屋敷の道”

今回の散策の起点は、伊賀鉄道「上野市」駅です。印象的な外観の駅舎（国登録有形文化財）を眺めていると、「忍者市」駅の表示に気付きました。伊賀市が忍者市宣言をしたのにもない、同駅も忍者市駅として親しまれているのです。高虎が大改修した伊賀上野城一帯は、現在は「上野公園」となり、人々の憩いの場となっています。駐車場（有料）もあるため、車でお越しの場合は利用するとよいでしょう。一方、城下町は「上野市

（忍者市）駅の南側に広がりますが、今回は、一旦北へ向かいます。すると、数分程度で姿を現したのが「だんじり会館」です。

城下の秋の風物詩として知られる「上野天神祭」の様子を再現・展示する館内に入った途端、目に飛び込んできたのは、絢爛豪華なだんじり（楼車）です。「だんじり」は、京都祇園祭の山鉦の形態を模した囃子屋台です。内部は三畳程度の広さがあり、鉦や太鼓や笛を担当する10人ほどでぎゅうぎゅう詰めでした」と、子どもたちから祭りに関わってきた松原さん。大型スクリーンに映し出され

る迫力ある映像に加えて、鬼や能面を被った鬼行列の様子も間近に見ることができました。

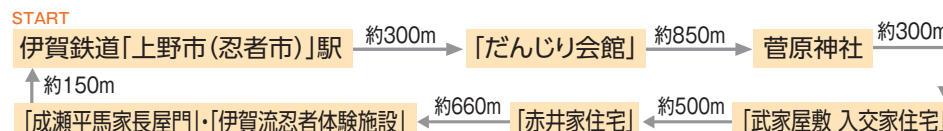
下屋敷の道を歩く

「だんじり会館」を見学した後は、長い階段を降り、風情のある鳴鹿坂を眺め、住宅地の中を続く細い道を南へ向けて歩きます。この辺りは、城の外堀の東側に位置していて、藤堂 新七郎家と藤堂 玄蕃家の下屋敷（別邸）や家臣たちの屋敷がありました。そのため「下屋敷の道」と呼ばれています。両家は、藤堂家の家臣団の中でも高い禄高と家格を有して



今回、ご案内いただいたのは「いがうえの語り部の会」の松原 進さんです。丁寧な説明に、江戸時代に時間旅行している気分になりました。

■ 行程図 所要時間／約2時間30分 ※所要時間は、おおよその目安です。





「赤井家住宅」



「成瀬平馬家長屋門」

前に立ち寄りたいのが、「成瀬平馬家長屋門」(市指定文化財)です。同家は、江戸時代に加判奉行を勤めた家柄。「家老や侍大将は世襲ですが、加判奉行は最も優秀な人物が選ばれました」との説明通り、堂々とした長屋門は、格式の高さを

誇るといふ同住宅に別れを告げた後は、もう1軒の武家屋敷へ。その名の通り「忍び(伊賀者)」が住んでいたという上野忍町の家並みが続く中を進むと、犬矢来(犬除け用の柵)が目を引く長屋門に気が付きました。「赤井家住宅」です。同家は、丹波国黒井(兵庫県)に居城を構えていましたが、高虎に召し抱えられて足軽大将に。現在地に屋敷を構えたのは、江戸時代末期のころで、同時期の面影をとどめる長屋門に加えて、明治時代中期

長屋門と

新たな忍者体験スポット

のころに建てられた主屋や土蔵・土塀なども併せて国の登録有形文化財となっています。なお、同屋敷は、市民の交流拠点として整備され、さまざまな体験の場として活用されています。

2軒の武家屋敷で武士の暮らしに想いを馳せた後は、再び伊賀鉄道「上野市(忍者市)」駅に向けて歩きますが、その



中森家住宅



菅原神社



拝殿



「武家屋敷 入交家住宅」の主屋



津田 親重氏の襖絵

いました。現在は、新七郎家の下屋敷「とまざま園(非公開)」があり、近くには、中森家の屋敷もたずんでいきます。江戸時代、新七郎家の家臣であった中森家の門や土塀は、今も往時の姿をとどめていました。なお、同家の主屋・離れなどは、門や土塀も含めて国の登録有形文化財になっています。

松原さんに藤堂藩の家老たちの俸禄や暮らしぶりなどを教わりながら散策していると、やがて菅原神社に到着。「だんじり会館」で展示していたのは、同神社の秋の祭礼「上野天神祭の様子で、神輿行列、鬼行列、だんじり行列で構成

武家屋敷で江戸情緒に浸る

される祭りは、「上野天神祭のダンジリ行事」として、ユネスコの無形文化遺産に登録されています。同神社は、かつては城内に鎮座していましたが、高虎が城を改修する際に、外堀の外側に位置する現在地に移したといわれます。

「天神さんと呼び慕われる菅原神社にお参りした後は、2軒の武家屋敷をめざして歩きます。二之町筋を過ぎ、三之町筋に出てからは通りに沿って西へ向かうと、重厚な長屋門とその奥に大きな茅葺き屋根が見えてきました。「武家屋

敷 入交家住宅(入館有料)で、県の文化財に指定されています。江戸時代の武家屋敷は、その大半を藩が所有し、藩士に貸し与えていました。藩士は職務内容や俸禄に見合った住宅に住んでいたのです。入交家がこの屋敷を拝領したのは、享保18(1733)年のこと。各部屋のたたずまいに質実剛健な武士らしさを感じながらも、天井板に描かれた落書きのような絵には思わず頬が緩んでしまいました。また、日本画家の津田親重氏から、近年寄贈された襖絵も展示され、見応えがありました。(展示は不定期)

春には庭の80株のボタンの花が咲き



「伊賀流忍者体験施設」※

示しています。なお、門の奥の建物は「伊賀流忍者体験施設」で、本年8月に開館したばかりの新しいスポットです。

上野城下の武家屋敷を巡る散策はこれで終了ですが、城下町には俳聖・松尾芭蕉ゆかりの地や句碑が多くあるほか、「だんじり会館」など忍者装束をレンタルする施設もあります。散策する度に新たな発見があるでしょう。



「だんじり会館」前に建つ芭蕉句碑



「伊賀市上野図書館」前の芭蕉句碑

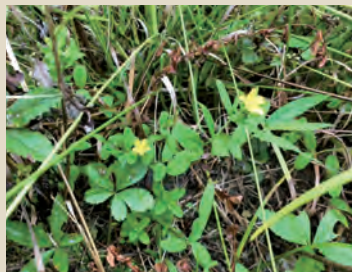
問「いがうえの語り部の会」

TEL 090-92264-1360

※印の写真は取材先から提供していただきました

守りたい、いのち 三重県指定希少野生動植物種

絶滅のおそれのある動植物種のうち、特に保護する必要がある種で、
三重県指定希少野生動植物種として指定している野生動植物を紹介します。



アゼオトギリ

被子植物双子葉類オトギリソウ科

◆ 分布 ◆

中勢、南勢、(伊賀)

日当たりのよい湿地に生える多年生草本。茎は叢生し、よく分岐する。
葉は無柄でわずかに茎を抱く。葉の全面に明点が散在し、縁には黒点
が密に並ぶ。花は直径10～13mmで黄色、花期は7～9月。

資料・写真提供：三重県 農林水産部 みどり共生推進課 野生生物班

■ お問い合わせ

三重県 農林水産部 みどり共生推進課 野生生物班

TEL:059-224-2578 メールアドレス:midori@pref.mie.lg.jp

*三重県指定希少野生動植物種を県ホームページに準じて紹介しています。

*県ホームページで他の野生動植物種をご覧になれます。

表紙写真 「特定非営利活動法人 白山文化・スポーツクラブ」(津市白山町)

百五銀行のホームページで、「すばらしき“みえ”」のバックナンバーをご覧いただけます。
<https://www.hyakugo.co.jp/mie/>